

「国際宇宙ステーションの光の色」

恒星は、明るい星も暗い星も、それぞれの色を持っています。その色によって、恒星の表面温度をおよそ特定することもできます。惑星は自分で光っているわけではないので、その光の色は太陽光を反射したものです。ただし惑星の表面には、それぞれの岩石やガスを構成する独自の色があるので、太陽光がそのままの色で反射されてくるわけではありません。では、国際宇宙ステーション (ISS) はどうでしょう? ISS も自分ではほとんど光を出さないで、地上から見える光は、太陽光を ISS が反射したものです。惑星と同じように、多少色は変わるでしょうが、基本的に太陽光と同じような色をしているはずで

す。天体写真を見ると、恒星にそれぞれの色があることがわかります。下の写真は非常に見た目に近い星の写り方ですが、やはり赤っぽい星、青っぽい星があることがわかります。しかし小さすぎてよくわからないので、その色だけを抽出して拡大してみました。



「ISSの軌道(反射光)と周囲の恒星の色の比較」

ぎょしゃ座 ι 星は、肉眼ではやや赤みを帯びて見えますが、色を抽出して拡大すると、やはり赤みを帯びていました。おうし座 β は青白っぽく見えます。拡大すると、やはりわずかに青みを帯びています。同じように色を抽出すると、ISSはわずかに黄色っぽいとわかります。ISSは太陽光を反射する、「宇宙の巨大な鏡」なのですね。